

月報 2022 年 4 月 30 日 No.375

石城山岳会

4 月号

四方通信

石城山岳会事務局編集

矢野山 (608m)

中吾妻山 (1930.9m)

安達太良山 迷沢

東吾妻山 (1975.1m)

第 10 回いわきの山を歩く会「田人中央山地」焼倉登山口 出発コース

「田人中央山地」

残雪の磐梯山 (1,816m)

横根山 (389m)

孤高のブナ・中倉山

4月登山教室山行『関伽井嶽』

弥彦山

那須岳・三斗小屋温泉

赤城山 (黒檜山) 1827m

京都トレイル

似蕪山

巻機山 1967m

一切経山（1949.1m）

郡山市・ニツ石山（742.5m）

矢野山（608m）

2021年12月5日（日） 太

矢野山は、「道の駅ふるどの」で北側に眺めることができる。急な角度でそびえ、雑木と杉が尾根でくっきり分かれている特徴的な山で、なかなか美しい姿である。古い地図に山頂への道が記されていたが、現地で登山口が見つけれず、車で簡単にアクセスできる最も高い場所から登った。

「道の駅ふるどの」すぐそば、鮫川支流九竜川に沿って北へ直線道を700m入った（伊波止和気神社の手前200m）地点で右折、舗装農道に入る。農道は、ため池脇を過ぎたあたりから林道になって高度を上げていく。舗装が終わると、すぐに終点の広場。そこから杉林の中を藪漕ぎ。

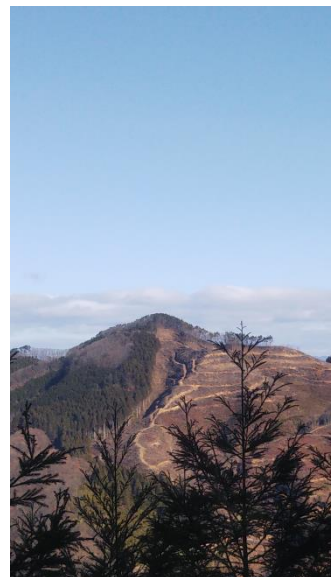
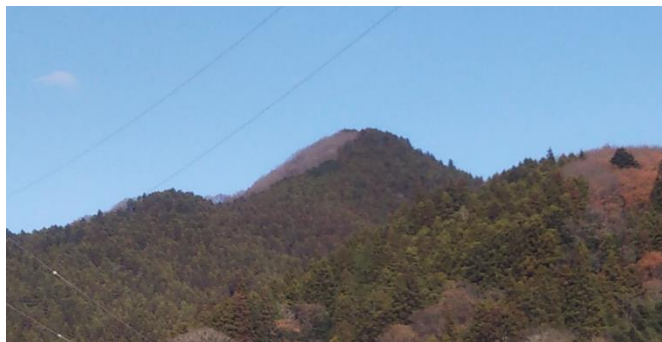
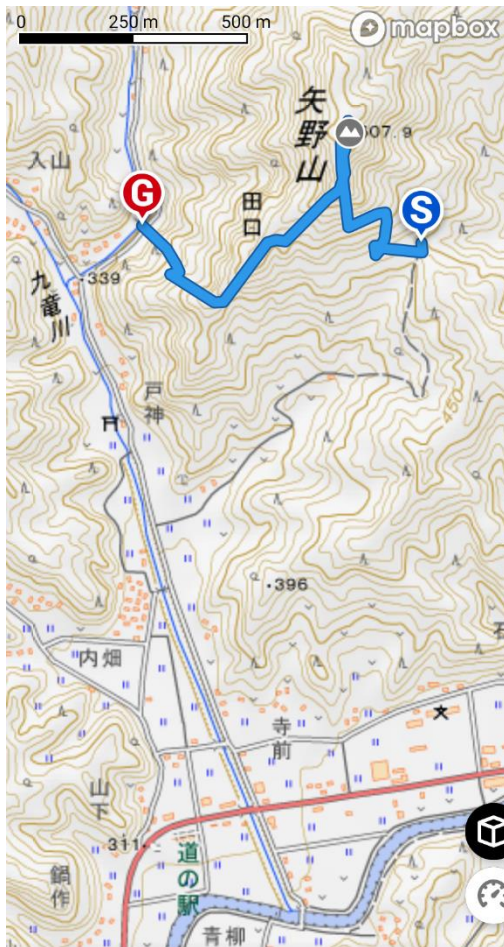
急斜面を登って行き、杉林と雑木林の境界尾根に出ると、道跡らしきものがある。下刈りもなく急傾斜だが直線的で歩きやすい。山頂手前の小さなピークに、倒れた石仏があった。「明治十丑二月吉日」と刻まれ、合掌する仏は馬頭観音か。山頂には境界杭と三角点（四等三角点「矢野山」607.93m）標石が並んでいた。山頂は雑木林だが、北側に若干視界が開け、植林中の入道山が目の前だった。

山頂からは、尾根の道跡らしきところを下山したが、正しいコースなのかは定かでない。

（文責：太）

[タイム]

9:30 林道終点（古殿町田口字戸神）→10:10 矢野山→10:50 下山地点（古殿町田口字東入山）



中吾妻山 1930.9m

2022 年 3 月 23 日（水） 渡辺（敏）

2 月に菅野さんと中吾妻山に挑戦したが、時間切れになり途中で引き返すことになってしまった。そのリベンジで、一人で中吾妻山にスキーで登った。金堀集落から早めに出発した。前回より 2 時間近く早いので、何とか頂上に到達できるのではないかと考えた。お昼過ぎ頃には山頂に到達できると思っていたが、なかなか進まず山頂に到達できたのは 3 時頃になり、8 時間近くかかった。しかし、風もたいしてなく穏やかで、天気崩れる心配もない。山頂からの眺めは気持ちよかった。雪の状態は前日に降った雪が 15cm 程度の厚さで古い雪の上に乗っていて、登るときは問題がなかったが、滑り降りるとき、気温が低下して表面が凍り出すと、非常に滑りにくい。林道までは 2 時間ほどで滑ってこられたが、林道のとりつきから登山口への途中で日没になり、ヘッドランプをつけて歩かねばならなくなり、時間がかかってしまった。

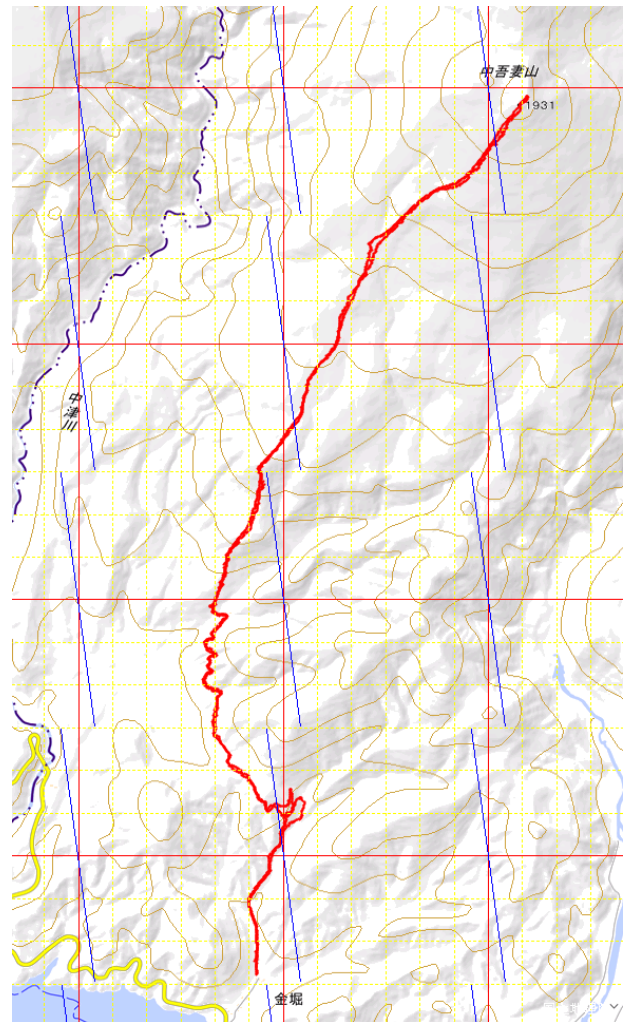
[コースタイム]

金堀登山口 6:45→地蔵祠林道登山口 8:44
→昼食 12:26 12:46→中吾妻山山頂 14:43
15:02→地蔵祠林道登山口 16:52
→登山口 18:53

（文責：渡辺（敏））



途中から安達太良山



山頂から西大巔、西吾妻山

安達太良山 迷沢

2022 年 3 月 24 日（木） 渡辺（敏）

ヤマレコの 1 週間ほど前の記録で、迷沢の橋を渡って鉄山避難小屋まで往復のスキー滑降の報告があったので、橋を渡って鉄山避難小屋まで往復できるのではないかと考えて出かけた。しかし、行ってみると、写真のようにとても渡れる状態ではなかった。もし、この橋を渡って下山しようと思って降りてきても、ちょっと無理のようだ。雪がしっかり積もって幅があるか、除雪すれば何とか渡れそうな気もするが、橋の一部が傾いて壊れかかっているようだ。この橋を渡った人はどのようにして渡ったのだろうか。沢を渡るのをあきらめて、箕輪スキー場へ通じる昔の道路を登って降りてきた。

（文責：渡辺（敏））



迷沢横断の橋の様子

東吾妻山 1975.1m

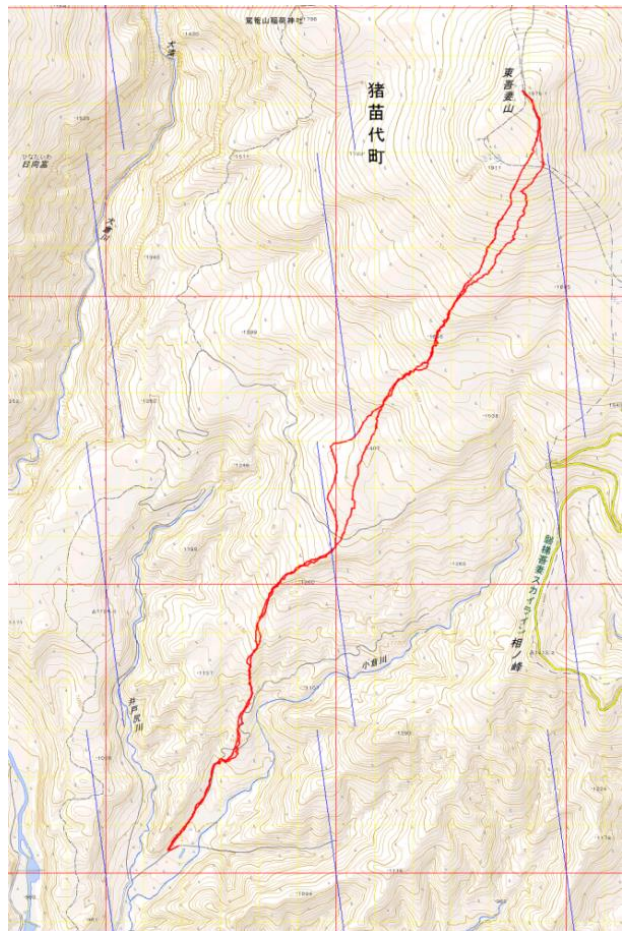
2022 年 3 月 25 日（水） 渡辺（敏）

3 年ほど前に秋葉さんと山頂直下まで来て、時間切れで山頂まで到達できなかったのが、再度山頂まで行こうと思って計画した。前回は風が強く天候があまりよくなかったが、今回は絶好の登山日和でした。蒲谷地の登山口に前泊して早めに出発した。3 月の下旬にもかかわらず、今年は積雪が多く十分な雪の量だ。最初は林道に沿って進む。林道からそれショートカットしながら尾根沿いに進む。まもなく別な方向から伸びている林道を横切る。まもなく緩斜面が現れ、それから少し下り、急斜面を上り詰めると、山頂直下の緩斜面に出る。前回はこのあたりで引き返した。このあたりは木が密に生え、登るのに手間取る。さらに進むと山頂に到達した。目の前には高山、浄土平、一切経が見え、周りは吾妻山の峰々、磐梯山、安達太良山と 360 度の大展望。山頂は風が強く雪が吹き飛ばされ、所々地面が見える。しばらく展望を楽しんで、シールを外し滑降の準備にかかる。雪質はだいぶべたついているが、滑りにくいー昨日の中吾妻山に比べれば上出来だ。できるだけ登りのルートを外さないようにして、快適に滑ることができた。登りに 8 時間近くもかかったが、下りは 2 時間もかからなかった。楽しい滑降でした。

（文責：渡辺（敏））

〔コースタイム〕

蒲谷地登山口 6:44→昼食 13:13 13:38→山頂 14:41 15:10→登山口 16:50



第10回いわきの山を歩く会「田人中央山地」

焼倉登山口 出発コース

2022年3月27日(日)

歩く会参加者：山岳会会員 14 名、教室生 8 名、一般参加 11 名

内：焼倉登山口 出発コース：17 名

田人支所前駐車場に集合しました。前日の風雨も収まり穏やかな天気です。ここから登り始めが、焼倉登山口と縦山登山口の2つの班に分かれて、おのおの車に分乗して登山口に向いました。

私は焼倉登山口の班です。登山口に着くと簡単な準備体操をしてから登りました。最初は林道を歩いてからすぐに雑木林の中を登ります。なだらかな勾配を登り鞍部を過ぎて少し行くと焼倉山頂(740m)です。山頂には風力発電の調査機材が設置してありました。この辺りは、風が強く吹いていて、早々に通過しました。山頂からは稜線の下りが続きます。イバラの木のとげが引っ掛かりストレスでした。下ると中間地点になり、縦山登山口からの別の班と合流し、ここで昼食になりました。

後半は林道を進み、縦山(大山)の道標がある所から杉林の中を登りました。標高差約 80mを登ると、そこからは平坦な登山道です。まもなく縦山(大山)(647.5m)山頂です。山頂を過ぎると湯ノ岳、天狗山、三大明神山、太平洋が望めました。しかし、なんと悲しいかな、周りは広範囲に木が伐採されていました。そこを下って行き、縦山登山口に到着しました。

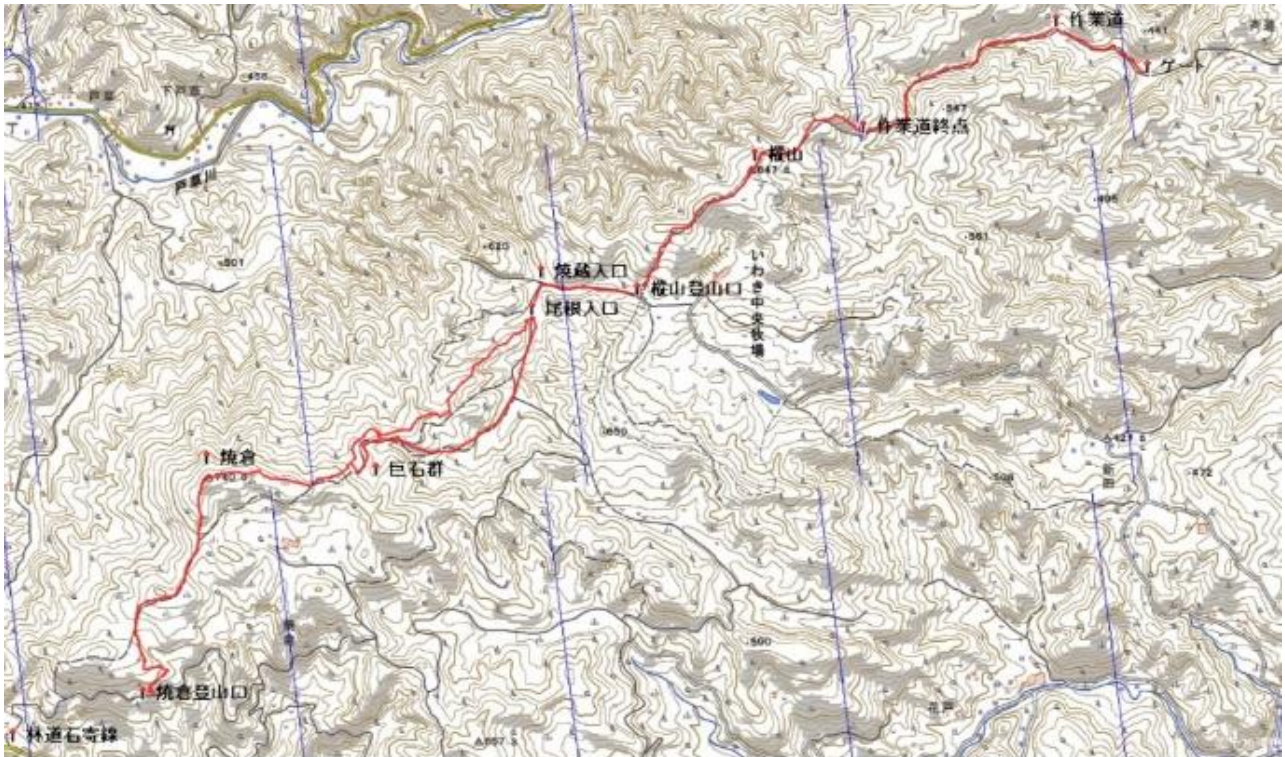
風力発電のための伐採や作業レーンが設置されているのをみると興ざめしてしましますが、概ね天候にも恵まれ楽しく山行できました。

[コースタイム]

9:20 焼倉登山口→10:05 焼倉→11:00 昼食 11:25→12:00 縦山(大山) 13:00 縦山登山口

(文責：山中)





「田人中央山地」

2022年3月27日（日）

山岳会員、教室生徒、一般 計 33 名

第 10 回を迎えるいわきの山を歩く会。8：30 田人支所近くの駐車場に集合。その後、二手（焼倉登山口と斉道のゲート）に分かれて登山口へ。

やや曇り気味ですが穏やかな天候の中スタートします。縦山に向けての作業道にはたくさんのふきのとう。皆さん登山よりも山菜採りに夢中になっています。やがて、ひと登りで縦山へ。小休止の後出発してからは雑木林の中を快適なハイキングです。途中で風力発電建設のための地質調査の看板が気になりました。11：00 には中央牧場を過ぎて早めの昼食をとります。40 分の休憩の後に出発。途中の巨石群が魅力的でロープワークを勉強しながら登りたくなるような光景でした。そこからゆるやかに登って、740m の焼倉山頂となりました。

そこからはゆるやかに下って焼倉登山口です。昼食場所で交換したキーを使って駐車場に戻りました。穏やかな「いわきの山を歩く会」でした。

（文責：甲高）

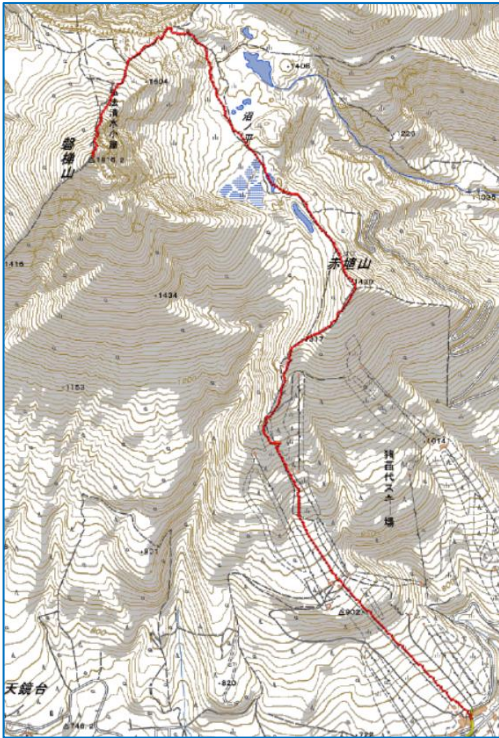
[コースタイム]

9：15 林道遮断機型ゲート→10：25 縦山（大山）→10：45 林道出合い
→10：50 作業道鎖ゲート→11：00 焼倉登山口（昼食）→11：40 巨石群
→12：10 焼倉→12：50 焼倉登山口（下山）

（タイム：太）

残雪の磐梯山（1,816m）

2022年4月2日（土） 小林



雪の磐梯山に登りたいと思っていましたが、お天気で風も弱い、かつ、休日となるとなかなか機会が訪れず、今年はダメかなと思っていたころ、絶好の機会が訪れました。3月に磐梯山東尾根の計画があったので、雪の東尾根ってどのようなところか確認もしたく、猪苗代スキー場から磐

梯山を目指すことにしました。

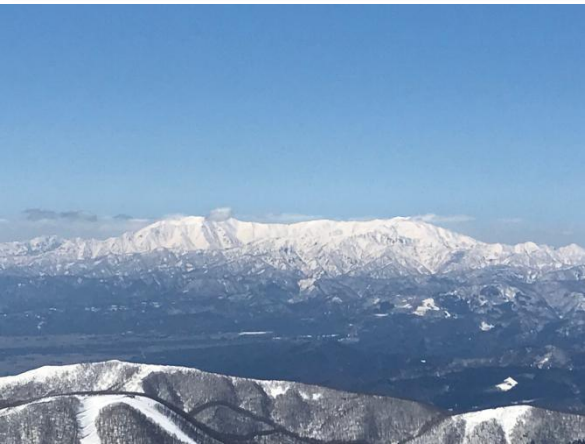
残念ながら今回は3月27日でスキー場の営業が終了しており、まずはリフト2本分のゲレンデ歩きです。後からスタートした年配の方にもリフト1本目で追い抜かれ、リフト2本目の途中でアイゼンを装着しリフト2本分を登るのに1時間半かかりました。さらに少し登ると（早く上に上がりすぎたようで）雪庇のようなところを恐る恐る、できるだけ離れて歩くことになりました。ヘロヘロになりながらようやく赤埴山山頂到着（まだ二合目）。赤埴山からの下りが距離は短いものの今日一番の急斜面だったように思います。ここから沼の平へは平坦な道のりで少し生きかえりました。途中で東尾根を見ると頂上直下は垂直の壁のように見えました。技術的にも体力的にも無理かと思われる斜面

でした。

櫛ヶ峰が近づくと結構頻りに落石の音が聞こえました。行きには磐梯山に近い斜面を通過しましたが、ここも落石が落ちていて注意が必用です（帰りはここから離れたところを歩いていました）。櫛ヶ峰から飛んできた砂塵の影響なののでしょうか、このあたりの雪の斜面は茶色に染まっていました。

なんとか弘法清水小屋までたどり着きました。小屋はいずれも屋根が出ているだけで、夏とは異なり磐梯山の山頂が良く見え、雪の斜面が続いています。夏でもここから





つらい登りですが、景色が全く違いました。少し時間が気になりますが、ここまで来たので山頂を目指しました。足取りも重くななんとか登頂しました。

下界の雪がないのは少し残念ですが、風もほとんどなく、猪苗代湖、飯豊山、月山、西吾妻山、安達太良山など 360° の絶景を楽しむことができました。スマホを見ると、バッテリー残量が少なく、省エネモードへ。モバイルバッテリーで充電しようとすると、新しいのを持ってきたらケーブルの端子が合わず充電できません ガーン。

景色を楽しみながら昼食を摂り、名残惜しいですが下山です。

頂上直下も結構な下りで、念のためピッケルを出して、滑落停止できるが疑問ですが、慎重に下りました。広い斜面で尻セードしている人もいたので(結構スピード出てました)、滑落停止の練習をしてみるかと思いましたが、ケガをするとどうにもならないので止めておきました。沼の平の雪原を歩き、赤埴山は巻道へ。巻道への分岐はトレースがありませんでしたが、少し入ると一人だけ歩いた足跡があり無事スキー場の上部に到着しました。あとはゲレンデを降りるだけで、営業も終了しているためゲレンデの真ん中に足跡をつけてきました。雪道の登りはもう少しなんとかしないといけませんが、天気にも恵まれ満足な一日でした。

[コースタイム]

猪苗代スキー場 7:55～10:20 赤埴山(二合目) 10:30～12:15 弘法清水小屋～13:00 磐梯山 13:40～16:00 猪苗代スキー場 (距離：約 10km 上り：約 1,200m)

(文責：小林)

横根山（389m）

2022年4月3日(日)

参加者 秋葉、根本（か）蛭田（一）、小谷野、小林、芳賀
山縣、菊地、柏村、蛭田（三）、佐藤（幸）、伊藤（貴）

勿来の関入口駐車場（いわき市勿来駐車場）に集合してから分乗して横根山へ、午前8時頃、花貫さくら公園駐車場に到着。初めて桜の咲いていない公園を見て、今年は早く来すぎたかなが第一印象。

橋を渡り、少し歩いてから左にある登山道に入る。川沿いの歩きにくい道を進み尾根を登る。

今年のイワウチワは、花が少ないので少し残念。尾根を登りきり沢尻十字路から沢尻湿原へ向かう。健気に咲いている水芭蕉を鑑賞してから、横根山へ向かい山頂で小休止。

休憩後、横根山から都室山（449m）に向かい午前11時15分に到着し昼食。少し風が吹き寒く感じた頃、鳥曾根（とりそね）・都室山登山口へ下る。ここから約1時間、舗装道路を歩き花貫さくら公園駐車場に戻る。

（文責：芳賀）



（画像提供：小林）

孤高のブナ・中倉山

2022年4月9日（土） 太、山縣、菊地



山頂近く尾根に一本だけ立つ「孤高のブナ」。その貴い姿を一目見ようと、知人に御案内いただき、日光市足尾町の中倉山に登った。

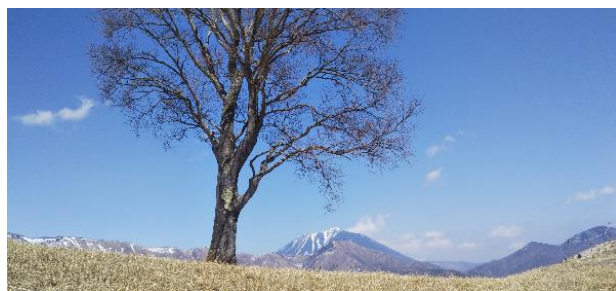
足尾砂防ダムを望む銅（あかがね）親水公園の駐車場から、遮断機型ゲートを越えて登山口まで林道を歩く。登山口からは急斜面を折り返しながら尾根へ。尾根から山頂付近まではほぼ直登。樹木が疎らになり、三等三角点（点名「上向」1499.59m）付近から大きく展望が開ける。その先、頂上を越えたところに「孤高のブナ」が立っていた。

ブナの北側は、松木川（渡良瀬川）谷底を覗き込む崖。その向こうに半月山、社山、日光男体山が望める。ブナ周辺、周囲の山々に大きな樹木はない。足尾銅山の煙害で植生が壊滅、樹々が悉く失われたという。その過酷な環境を生き残った「孤高のブナ」。種々思いを馳せながらひと休み。

下山は、中倉山の山頂を巻いて山腹を下る。石を落とさぬよう注意しながら急斜面を折り返して下り、再び林道を歩いて駐車場まで戻った。

[コースタイム]

8：40 銅親水公園駐車場→9：40 登山口→11：40 中倉山山頂→11：50 孤高のブナ
→13：50 登山口→14：40 銅親水公園駐車場



4月登山教室山行『関伽井嶽』

2022年4月10日（日）

西村（里）、西村（淳）、永山、伊藤（晴）、芳賀（恵）、岩崎、高木、須藤、西田
秋葉、下山田、根本、山中、山縣、二瓶、蛭田（一）、国井、柏村、佐藤（勝）

頼もしい3期生が登山教室を修了し初めての山行。教室生9名、山岳会員10名でいわき市好間にある関伽井嶽に登った。この日は4月上旬にもかかわらず気温は20度を超えとても日差しが強かった。

いわき総合射撃場を通り過ぎ、舗装道路の終点が今回のスタート地点、下ヶ屋敷登山口だ。しばらく登った後、トラバースして御滝へ向かった。歩くスペースがとても狭く、右側は滑りやすい斜面になっているので注意しながら進んだ。出発から30分ほどで御滝へ到着。水量は多くはないが、滝のそばまで行くと涼しく癒やされた。水分補給の休憩を取り、つづいて県道沿いの旧参道入り口から関伽井嶽薬師を目指した。旧参道には階段や道標が残っていたり、『首なし地藏』、『亀の子石』、『石仏群（三十三観音）』といった見どころ（?）もあるため、アトラクションを楽しんでいるような気分だった。竹林を通り抜け9時50分関伽井嶽薬師到着。龍燈杉やイワウチワの群生を見学しつつ、ここで長めの休憩をとった。再び登山道へ戻りいよいよ山頂へ。カタクリの花を楽しみながら目印のテープを見失わないようにして関伽井嶽山頂に到着。4期生が一つめのピークを踏んだ。

山頂から望洋台までは山岳会の方々が先に行って登山道整備をしてくれたのだが、ここでハプニング発生。先発隊が別の道を行ってしまい望洋台で落ち合えず、無線も通じないという状況に。こういったハプニングには初めて遭遇したのでとても心配だった。幸い、望洋台では電話が繋がり、また声を掛け合って応答を確認できたのでホッとした。登山のベテランでも、慣れた山でもこういうことが起こるのだなあと勉強になった。さて、望洋台では思った以上に枝が伸びていたとのことで眺望抜群とはいかなかったが、山岳会の方々が整備してくれたおかげで腰を下ろすスペースができ、ゆったりとランチすることができた。昼休憩後下山し登山口へ戻った。20分ほど遅れて先発隊も戻ってきた。疲れ果てた様子だったが、皆で下山できて良かったと心から思った。（文責：西田）

[コースタイム]

8：30下ヶ屋敷登山口→9：00御滝→9：20旧参道入り口 →9：50関伽井嶽薬師→10：45関伽井嶽山頂→11：20望洋台昼食→12：35下ヶ屋敷登山口



弥彦山

2022 年 4 月 16 日 秋葉、吉田



新潟県の角田山は春の花で人気の山で何度か行ったことがある。隣の弥彦山も同じような環境にあるが、ロープウェイや弥彦スカイラインがあり、頂上は踏んだことがあるのがじっくり歩いたことはなかった。

雨の中を水石トンネル 6 時出発、9 時に弥彦神社に着くと予報通り雨はあがった。

弥彦神社登山口より頂上ピストンすることにする。頂上に着くと晴れあがって越後平野、日本を望むことができました。



トキワイカリソウ（锚草）



長嘴スミレ



越のコバイモ

図鑑で確認しながら通常の倍の時間をかけ歩きました。カタクリ、イワウチワ、山桜、丁字桜の他、沢ハコベ、九輪ユキフデ、みちのくエンゴサク、スミレ細辛、大立壺スミレ等、日本海側でしか見られない花、初めて見る花を愛でることができました。

弥彦名物カレー豆を購入し帰りました。

（文責：秋葉）

那須岳・三斗小屋温泉

2022年4月16・17日（土・日）

太・山縣・菊地・二瓶



三斗小屋温泉「煙草屋旅館」の冬季休業が終わり、再オープン（小屋開き）したので、これを利用する那須岳周辺山行を計画。

昼過ぎ峠の茶屋駐車場に到着。車は少なく、公衆トイレは閉鎖中。中の茶屋跡まで少し雪は残るが、その先、峰の茶屋跡までほとんど雪はない。登るにつれて風が強くなり、ロープウェイは朝から運休のようだった。峰の茶屋跡から那須岳避難小屋へ下ると、再び雪。避難小屋から先は、樹林の中なので、風は吹かなかった。

煙草屋旅館に到着後は、さっそく入浴。野天風呂で有名だが、今年から女性専用入浴時間帯が3つに増え、日帰り入浴も利用しやすくなった。雪をいただく流石山、大倉山など裏那須の山々を眺めながらの野天風呂は格別である。また夜は、月光に輝く雪溪、翌朝は朝日で薄紅の山も楽しめた。

翌日は風もなく天気は良かったが、温泉を十分に堪能できたので、そのまま県営駐車場へ戻って下山した。

（文責：太）

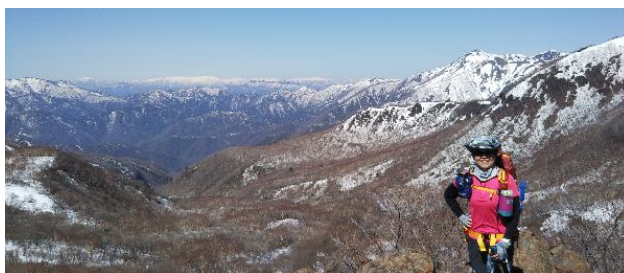
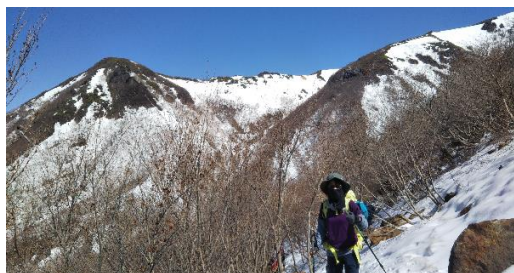
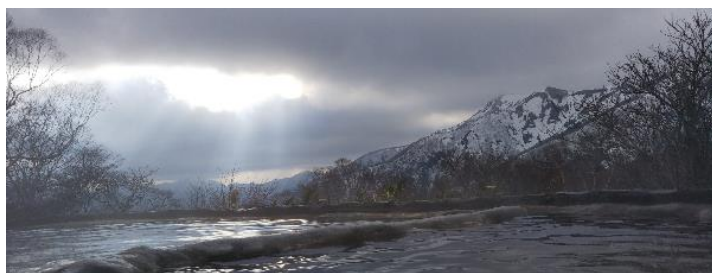
[コースタイム]

《初日》

12：50 峠の茶屋登山口→13：30 中の茶屋跡→14：00 峰の茶屋跡→15：30 三斗小屋温泉

《二日目》

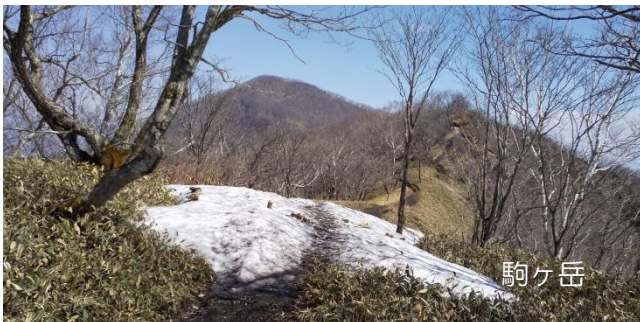
7：50 三斗小屋温泉→9：40 峰の茶屋跡→10：20 中の茶屋跡→10：40 峠の茶屋登山口



赤城山（黒檜山） 1827m

2022 年4月 19 日（木） 渡辺（敏）

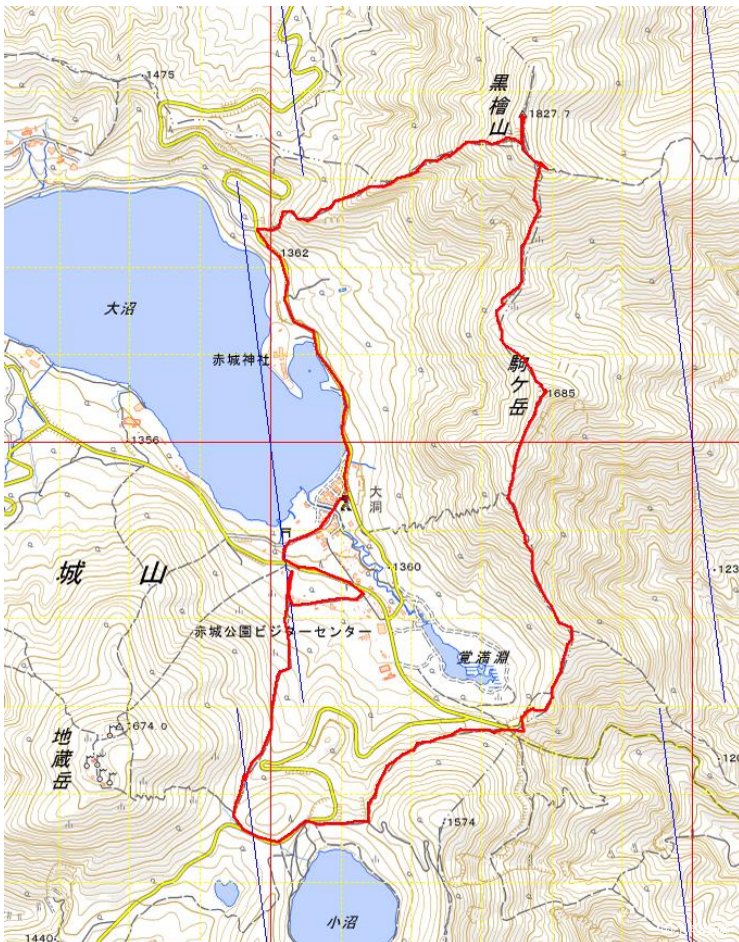
前日に高速道路のPAで泊まり、朝早く赤城山大沼湖畔の駐車場に到着した。まだ、春の観光時期には早いので、登山客は少ない。駐車場から黒檜山、駒ヶ岳、鳥居峠、小沼を周回するコースを選び出発した。登り始めはほとんど雪はなかったが、次第に標高が高くなるに従い、登山道が雪に覆われるところが多くなる。雪が凍っているとアイゼンが必要だ。気温が高くなり雪が柔らかくなってきたので、アイゼンがなくとも問題はない。前日の雨で水蒸気量が多く、山頂からの眺めは、あまりよくない。風はそれほどなく、風が当たらない日だまりの斜面でお昼を食べて、12 時過ぎに駐車場に戻ってきた。ほどよい距離と時間でした。



【コースタイム】

駐車場 6:51→黒檜山登山口 7:11→黒檜山 8:26
→駒ヶ岳 9:24→鳥居峠 10:25→小沼 11:06→
昼食 11:13 11:52→駐車場 12:32

（文責：渡辺（敏））



京都トレイル

2022年4月19日(火)~22日(金)

山中

昨年の4月に予定していましたがコロナのため延期にしていた、ようやく1年越しに実現することができました。前日に京都入りしてまだ見学していなかった、東寺、西本願寺と東本願寺をのんびり観光しました。

1日目 東山コース

スタートは伏見稲荷駅からです。外国人観光客人気ナンバー1の観光スポット、伏見稲荷の鳥居の参道を歩きます。朝早いので観光客がほとんどいなく気持ちよく登れます。稲荷山中腹から山道を下りしばらくして住宅街を歩いて泉涌寺、そしてまた山道になります。清水山(242.5m)から1時間ほど歩いて栗田神社から蹴上までは市街地です。インクライン、日向神社を歩いてまた山道になります。ここから1時間ちょっと登ると大文字山(465.3m)山頂になります。山頂は眺望が良く、この日は天気も良かったので平日にもかかわらずたくさんの登山者がいました。中腹にある大文字の火床を下り、銀閣寺の脇を通過して、哲学の道の一部を歩いて市街地です。15分ほど歩いて山道になります。瓜生山(301m)を経て尾根道を歩いて水飲対陣跡碑まで行き、雲母坂を下って修学院駅に到着して1日目は終了です。道間違いもありこの日は約26km歩きました。

[タイム]

伏見稲荷駅 6:15→四つ辻 6:55→清水山 9:25→蹴上 11:00→大文字山 12:35→大文字山火床 13:10→瓜生山 15:10→水飲対陣跡碑 16:35→修学院駅 17:40



2日目 北山東部コース①

この日は比叡山に登りますが、昨日の疲れと時間のこともありズルしてケーブルとロープウェイに乗ってしまいました。ロープウェイを降りてまずは大比叡(848.1m)に登り、しだれ桜が見ごろの阿弥陀堂から改修中の根本中堂、釈迦堂と観光をしてから回峰行道の尾根道を歩きました。横高山(767m)、水井山(793.9m)と縦走し仰木峠を過ぎてから東海自然歩道を下って大原に向いました。大原では三千院と寂光院を拝観して宿に到着しました。この日は約17km歩きました。

[タイム]

比叡山頂駅 9:20→大比叡 9:50→阿弥陀堂 10:15→根本中堂 10:35→釈迦堂 11:20→横高山 12:30→水井山 12:50→仰木峠 13:35→大原 14:25→三千院 14:55→寂光院 16:15→宿 17:15



3日目 北山東部コース②

宿を出て大原に1軒だけあるコンビニで昼食を買ってから出発しました。大原ののどかな風景を見ながら歩き江文神社参道分岐から山道に入ります。しばらく歩くと静原の集落になります。集落を過ぎてから薬王坂の峠の登りが始まります。峠を過ぎ下ると鞍馬になります。鞍馬から貴船へは鞍馬寺の境内を歩いて行きます。山門で愛山費300円を払います。由岐神社、鞍馬寺（本殿）、木の根道までは登りで過ぎると下りになり貴船にある鞍馬寺西門に続きます。貴船神社に着くころには雨が降り始めましたが、奥宮、結社と参詣し、貴船川では5/1から始まる川床の準備を見ることができました。二ノ瀬に到着してこの日のトレッキングは終了です。この日は約15km歩きました。

[タイム]

大原 8:15 → 江文峠 9:05 → 静原 9:25 → 鞍馬寺山門 11:00 → 貴船 12:30 → 二ノ瀬 14:25



*今回、北山西部コースは日程の都合で省略しました。

4日目 西山コース

阪急嵐山駅前から京都バスに乗って清滝に向います。清滝には愛宕山登山口もあるためバスには登山者も乗っていました。清滝からは清滝川に沿って歩きます。天気も良く新緑と川の流れる贅沢な雰囲気の中を歩きました。川沿いの道を過ぎると舗装道路を歩きしばらくすると嵯峨野の門前町並みになります。ここでは石仏・石塔の化野念仏寺を拝観しました。嵯峨野から嵐山、このあたりのコースは観光地のため修学旅行生や観光客でにぎわっていました。渡月橋を過ぎ、バスに乗った阪急嵐山駅前を通り過ぎて松尾山(275.6m)に登ります。西芳寺の脇を通って上桂駅に到着して京都トレイルは終了です。この日は約14km歩きました。

[タイム]

清滝 9:45 → 落合橋 10:40 → 化野念仏寺 11:30 → 渡月橋 12:30 → 松尾山 14:00 → 上桂駅 15:15



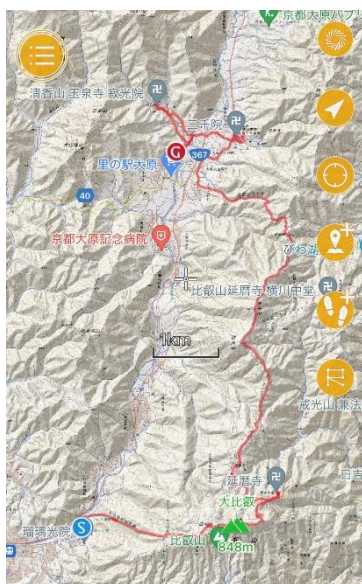
今回省略した北山西部コースを含めて京都一周トレイルをして、山岳会員としては宿でなくテン泊をすれば良かったのですが、日程と軟弱なため今回のような内容になりました。

ただし、一年越しの思いがけない、3日目の午後に雨に降られた以外は天候に恵まれ、観光もでき、思う存分歩いた楽しいトレッキングになりました。

(文責：山中)



東山コース



北山東部コース①



北山東部コース②



帰りの伊丹空港では、いつもの豚まん、焼そばと生ビールで締めデス！

西山コース



似蕪山

2022 年 4 月 20 日 秋葉



只見町の笠倉山と塩沢川を挟んで対峙しているピラミダルな似蕪山。以前にスキーで行ったが、林道を辿ったら遠回りになり、時間切れで敗退した。只見町と金山の境界にあり、その稜線を辿って雲河曾根山、一等三角点の貉ヶ森等の国境稜線まで行けないかと偵察に出かけた。

除雪は塩沢の熊野神社まで、塩沢川沿いの林道を行くがいたるところにデブリの痕、トラバースする所はスリップすると塩沢川に落ちてしまうので緊張して通過する。一の平橋を渡ると登りになるのでスノウシューを着ける。前回

に凝りて、林道は適当にカットして行く。

似蕪山の西に出ている尾根のコルを目がけて登るが、中々の急斜面で両ストックのピックを使って四つ這い状で登る所もある。

コルに着くと広々の雪原、このまま気持ちよく行けると思ったのは束の間、直ぐにスノウシューを背負い藪を漕ぐ羽目に。20 分と予想していたところを 1 時間以上かかって頂上へ。

残雪の会津、会越国境の山々が 360 度の展望だが、私の行きたいところは雪がなく不可能だ。



下りはスノウスパイクつけてスリングを準備して手前のコルから木の枝に掴まりながら下る。

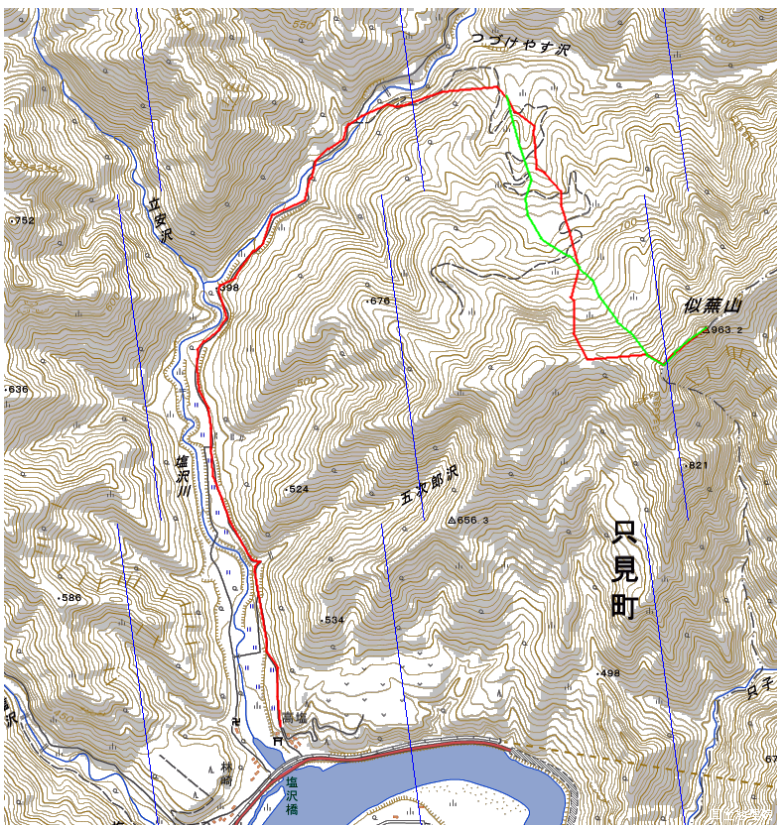
途中スリップしてシュルンドに頭から落ちて抜け出せなくて困った。10 m前で底雪崩が発生、塩沢川へ落ちた。巻き込まれたらとゾットする。

(文責：秋葉)

コースタイム

塩沢 5 : 10 → 一の平橋 6 : 10 ~ 30
→ コル 8 : 20 ~ 30 → 似蕪山 9 : 30
似蕪山 9 : 50 → 一の平橋 11 : 00
→ 塩沢 12 : 00

赤：登りルート 緑：下りルート



巻機山 1967m

2022 年 4 月 21 日（木） 渡辺（敏）

赤城山から武尊山に登ろうと 20 日に川場スキー場に到着して、スキー場の入り口で車中泊をしたが、到着したときは天気がよく、次の日も天気予報では晴れ時々曇りで、雨の予報はなかったので、晴天を期待していたが、夜半から雨が降り出して、朝になってもやむ気配はなく、おまけに濃いガスがかかり、視界は数十メートル。

ガスがとれ雨が小やみになれば出発使用と思ったが、9 時過ぎても雨がやむ気配はないので、あきらめて次の巻機山に向かった。

新潟県側に入ると晴天で、谷川岳を境に天気が大きく異なっている。道の駅で前泊して、早朝に登山口に到着した。登山者はまだ誰もいないようだ。道路の脇に車を止めて歩き始めた。

無雪期の登山口の桜坂に到着した。新潟県側なのでこの時期でもまだかなりの積雪量だ。登山口から尾根に出て、尾根に沿って登って行った。途中からアイゼンをつけた。わかんを携行したが必要なさそう。天候は好天であったが、次第に曇りがちになり、風が次第に強くなった。山頂部ではかなり風が強く、寒く手がかじかむ。見通しはますますで周囲の山々を見渡すことができる。危険なところは、ニセ巻機山への登りで、この時期は夏道が出ているので、夏道に沿って登れば問題はない。しかし、夏道を外してしまったので、急斜面を登り雪が切れて藪が出てきて、しかも雪渓の割れ



巻機山山頂部

目も出てくるのでルートによっては慎重に登る必要も出てくる。出会った登山者は数名で、いずれも単独行。登山口近くでは除雪作業が進められ、連休までには桜坂登山口まで開通するようだ。雪山を久しぶりにアイゼンで歩行したが、天候もますますで楽しい一日でした。



ニセ巻機山と割引岳

[コースタイム]

登山口 5:47→桜坂 6:40→朝食 6:55 7:10→ニセ巻機山 10:48→避難小屋 10:59→巻機山
11:45→避難小屋 12:22 12:42→桜坂 14:47→登山口 15:51

(文責：渡辺（敏）)



一切経山（1949.1m）

2022 年 4 月 23 日（土） 太

磐梯吾妻スカイラインの冬季閉鎖が終了したので、再開通翌日に浄土平から一切経山に登った。

ビジターセンターに登山届を出して、まずは酸ガ平避難小屋を目指す。天気は晴れ間が少し、噴気孔から出る火山ガスもはっきり見えた。湿原の木道を歩いていくと、小川を渡った先から雪。軽アイゼンを持参していたので装着。酸ガ平避難小屋少し手前から、少しずつガスがかかり、登るうちに酸ガ平が見えなくなった。尾根を進むようになると雪はなくなり、ガスに加えて風も強くなった。まっすぐ歩けないくらいの暴風に、ふらつきながら登る。山頂まで雪はない。

山頂にて山名標柱と三角点（一等「吾妻山」1949.10m）標石を写真に収めるも、風が強すぎて自撮りもままならない。ガスで視界は 10m くらい。五色沼「魔女の瞳」の眺望は絶望的だ。家形山まで行き、山頂から五色沼を見下ろすつもりだったが、早々に撤退。

強風とガスのために道迷いしそうだったので、慎重に下山。立っている鉄杭と置かれたロープを頼りに避難小屋まで下って、来た道をそのまま浄土平へ戻る。

[コースタイム]

9：20 浄土平ビジターセンター→10：10 酸ガ平避難小屋→10：45 一切経山
→11：30 浄土平ビジターセンター

（文責：太）



郡山市・ニツ石山（742.5m）

2022 年 4 月 23 日（土） 太

石城山岳会で「ニツ石山」というと、「いわき七峰縦走」の一等三角点峰が想起されるが、郡山市にも同名の山がある。新うつくしま百名山「一盃山」の西 1.9km にあるニツ石山である。

郡山市中田町中津川字川田の「ニツ石山森林公園」案内標柱に従い、字野出坊へと入る。再び案内標柱があるので、林道に入って登っていく。登山口は、林道最高地点の少し下。そこに登山口案内標柱と案内地図が立っている。少し先には 1、2 台くらい駐車できそうな場所がある。

登山道は、広くて良く整備され、少し急な場所には木や擬木で階段が設置されている。岩場やロープなどの危険箇所はなく、休まず登れば頂上までは 20 分足らずだろう。登る途中で時折、鞍掛山と黒石山、郡山市街地が木々の枝越しに見える。階段と水平移動で山腹を進み、尾根に着くと、「ニツ石」がある。巨石 2 つが尾根斜面に並んでおり、脇から見ると上の石が下の石を抱えるようにも見える。下の石の前に郡山市長の揮毫した石碑が立ち、賽銭箱なども置かれている。その前を通り過ぎ、少し登ると展望広場があり、少し先が山頂。三等三角点（点名「二石山」742.51m）もあるが、眺めは手前の展望広場のほうがよいだろう。展望広場からは、宇津峰と須賀川市街地、三春ダムと郡山市街地、鞍掛山と黒石山が望めた。磐梯山や安達太良山の案内もあるが霞で確認できなかった。展望案内のほか、ベンチや仮設トイレもあるので、展望を楽しみながら休憩すると良いだろう。

[コースタイム]

13:50 登山口→14:05 ニツ石→14:10 山頂 14:25→14:30 ニツ石→14:40 登山口

（文責：太）

